



みんなで150周年に向かって！

# 川小だより

学校教育目標

・美点を認める明るい子 ・ルールを守る正しい子 ・背筋の伸びた丈夫な子

【目指す児童像・・・素直な子】

令和5年11月 1日(水) No.9  
狭山市立入間川小学校  
〒350-1323 狭山市鶴ノ木5-9  
TEL 04-2952-6221 FAX 04-2952-6222

児童数 10/30 現在  
490名

## 川小文化

校長 伊藤 秀一

先々週の19日(木)から20日(金)に、6年生が一泊二日で栃木県日光市を中心に修学旅行に行っていました。私は今年度も引率の一員として同行しました。

今年は例年以上に夏の暑さが厳しく、しかも長期に及んだので、紅葉が進んでいないのではないかと心配しておりました。しかし、宿泊地でもあり一日目に散策を行う戦場ヶ原のある奥日光に向かうに従い、木々の葉の色が黄緑から黄色、黄色から赤に色づく様子を「きれいだなあ！」と異口同音に児童から発せられました。

宿泊先では夕食後に、体験学習として益子焼の絵付けを行いました。約30分間の学習でしたが、誰一人言葉を発することなく集中して取り組む姿に、感心するとともに、最高学年としての成長とプライドを見せつけられた思いでした。

入浴の前後は、土産の購入と部屋での休憩の時間です。家族に何を買って帰ろうかと友達との会話に興じたり、カードゲームや友達との語り合いなど大いに盛り上がりつつありますが、就寝時刻になると、各部屋から聞こえてきたひそひそ声も、次第になくなり、眠りに就いたようでした。

学校を出発する際に、私は、「普段の生活と異なる3つの「間」の違い、つまり「空間」(過ごす場所)、「時間」(チャイムで区切られない生活の流れ)、「仲間」(泊をとともにすることで気づく新たな発見)を楽しんでみましょう」と児童に話しました。それぞれの場面で見られた児童の姿から、十分に3つの「間」を楽しめたと言えそうです。私の出した学習課題を見事にクリアした6年生には、このことを糧に半年後に迫った卒業に向け、生活や学習をさらに充実させて欲しいと思っています。

さて、ご存知のとおり11月3日は文化の日ですが、「文化」について印象深い出来事があります。出来事と申しましたが、30年以上前の大学の国語に関する講義で、講師が「文化とは曖昧(捉えづらい)なものである」との言葉から、切り出された話です。

まずは「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果」(「広辞苑」岩波書店)のように、一般的なイメージを講師は示しました。次に、文化という言葉のつく具体物として「文化住宅」「文化包丁」などから、近代的な、便利なという例を示しました。

文化という言葉に対する、抽象的なイメージと、文化という言葉を使った具体物には違いが生じている、という主旨だったと思います。「自由と平和を愛し、文化をすすめる」という趣旨から考えると、文化の日の「文化」は、先程の例では抽象的なイメージの方になりそうです。

一方で、室町文化や関東文化など、文化は様々な時代や場所で形成されます。では、「入間川小学校における文化とは」と問われたら、どう答えるでしょう。「物心両面での成果」という言葉から、様々な答えがあると思いますが、一番はやはり、本校の目指す児童像にもある「素直さ」ではないでしょうか。

それが具現化されたのが、いきいきタイム(縦割り活動)や日常生活の中で見られる、高学年児童が低学年児童を優しく導き、また低学年児童が信頼して従う姿や、教職員などの大人に対する人懐っこさに現れていると感じます。その一端が反映されたのが、冒頭でご紹介した、6年生の修学旅行での過ごし方です。「川小文化」が大切に引き継がれながら発展することを改めて祈りたいと思います。